

## 軽度の知的障害や発達障害のある生徒の内面を重視した指導法に関する研究（令和2年度）

研究代表者

武田鉄郎

共同研究者

北岡大輔 辻岡麻起子 道上里砂 小畑伸五

鶴岡尚子 滝元あゆみ 中筋千晶 宮本太志

<附属特別支援学校>

### 1. 研究の経緯と目的

A 特別支援学校高等部では、高等部段階から入学する生徒を対象とし、職業的な自立を教育目標とする B コースを設けている。このコースに入学してくる生徒は、知的障害の程度は軽度であるものの、その多くが発達障害あるいはそれと類似した困難さを抱えている。また、中学校からの引き継ぎや、入学後の本人の語りからは、ほとんどが小・中学校段階に不登校やいじめ被害を経験している。そのため、自分に自信が持てなかったり、心理状態が不安定だったりする生徒も少なくない。中には心理的に不安定な状態を不適応行動や非社会的行動として表面化させてしまう生徒もいる。

そこで、B コースにおいては、心理教育の視点も含めながらカリキュラムの見直しを行い、時間割にセルフデザインという領域・教科を合わせた指導を位置付けた。このセルフデザインでは、他者とのよりよい関係を築くための基盤を整えること、その中での関わり合いを通して他者と不安や悩みを共有できる環境を保障すること、その上で自己理解を促し、自尊感情を高めていけるような学習を進めていくことを大切にしている。

セルフデザインをカリキュラムに位置付け、実践を進めてきた中で、生徒の様子にも少しずつ変化が見られるようになってきている。具体的には、互いに関わりを持ちながら学習に取り組んだり、困り感や悩みについて「ちょっと聞いて」と友だちや教師に相談したりする様子がよく見られるようになってきている。

その一方で中には、発達障害の特性や自尊感情の低下、人に対する不信感などから、他者に対して自分本位な関わりをしてしまったり、自分の気持ちを押し殺してしまったりする様子も、継続して見られる。

そこで本年度は、生徒たちの自らが抱える思いや考えに気付けるようにすること、その思いが相手に伝わったと実感できるようにすること、他者の考えを受け止め、自らの考え方を見つめなおそうとすることなどをねらいとして、授業「あってもよい違い？あってはならない違い？—みんなで考えを出し合おう—」に取り組んだ。

## 2. 対象

A 特別支援学校高等部 B コース 1 年生 5 名

## 3. 実践「あってもよい違い？あってはならない違い？—みんなで考えを出し合おう—」

### 1) 設定の理由

高等部 B コース 1 年生の生徒は、何事にも実直で学習に積極的に取り組むことができている。初めてのことや困難なことなどに対しても、不安を抱えつつも真剣に取り組み、確実に自らを成長させようとしている姿が見られる。

しかし、自分の考えや思いを他者に伝えたり、他者の意見に対して自分の考えを顧みたりすることには課題を抱えている。具体的には、自分の考えや思いがあってもそれらをうまく言葉にできず、結果として誰かの意見に追従してしまったり、反対に、自分の持つ価値観にとらわれてしまって他者の意見を受け入れられず、自らの思いを貫き通そうとしてしまったりするといった様子などが度々うかがえる。これらの背景には、自分の考えをうまく言語化できなかったり、「相手との間で波風を立てないようにしなければ」「自分が考えていることをどうしてみんなはわかってくれないんだ」といった思いがあったりすることが推測される。クラスのテーマを考える授業の中では「互いを尊重し合えるようなクラスにしていきたい」「互いが心地いいクラスにしたい」といった意見が出るなど、根底には自他を大切にしたいという思いを持っている生徒たちである。

そこで本授業では「あってもよい違い？あってはならない違い？—みんなで考えを出し合おう—」というテーマを設定した。ここでは「バレンタインデーに S くんはチョコを 10 個もらったが、J くんはもらわなかった」などのお題について、これらの違いはあってよいと考えるのか、あってはならないと考えるのかについて、それぞれの生徒が自分の考えをまとめ、伝え合う。その中で、自他の考えには違いがあることに気付いたり、自分がなぜそのように考えているのかを見つめたりすることができるようにしたい。

指導の際には、それぞれのお題について、自分の考えを表明するために○と×の札を用い、どちらを挙げるかを考え、判断するための時間を十分に設けるようにする。そうすることで積極的に発言をすることが苦手であったとしても、他者の意見にとらわれずに意思表示ができるようにしたい。加えて、どちらともいえない場合には、札ではなく手を挙げることとし、その理由も含めて発表するようにする。このことにより、普段「どちらでも」という選択肢を選びがちな生徒についても、自らの思考を通した判断を促したい。

授業を始めるにあたっては「それぞれのお題に正解はないこと」「自分とは異なる意見であってもよく聞くようにすること」を明示した。授業の中では教師自身も生徒たちの話の輪に入りながら、ファシリテートを行った。

## 2) ねらい

- ・自分の考えていることを一度顧みて、自ら相手に伝えようとする。
- ・他者の考えを尊重し、自分との考え方の違いも含めて受け止めようとする。

## 3) 授業の流れ

1. 学習課題を確認する「あってもよい違いか、あってはならない違いかを考えよう」
2. ワーク「あってもよい違い？あってはならない違い？」に取り組む
  - ①お題を聞く
  - ②お題について自分の考えを決める
  - ③あってもよい違いなら○、あってはならない違いなら×、どちらとも言えないなら挙手をする
  - ④自分がそのように考えた理由を伝え合う
  - ⑤自分の意見をふり返る
3. ワークシートに自分の考えをまとめる
  - ①感じたこと、わかったこと
  - ②あってもよい違い、あってはならない違いを考えたときに、大事だと思ったこと



表1 お題の例「あってもよい違い？あってはならない違い？」

- 
- ・日本では食事の時に箸を使って食べるが、インドでは指を使って食べる。
  - ・大人はたばこを吸ってもよいが、高校生は吸ってはいけない。
  - ・Mくんは、ニンジンが嫌いだが、Kさんは何でも食べる。
  - ・マラソン大会で男子は10 km走るが、女子は6 kmを走る。
  - ・Oくんは、こわい先生のいうことはよく聞かすが、こわくない先生のいうことは聞かない。
  - ・バレンタインデーにSくんはチョコを10個もらったが、Jくんはもらわなかった。
-

### 3. 結果と考察

生徒たちはお題に対して札を挙げる場面では「どちらとも言えるけど、どうしよう…」とどちらの札を挙げようか、時間をかけて悩んでいた。札を挙げたときにはそれぞれが異なる答えを選ぶことも少なくなかったものの、それぞれがどうしてそのように考えたのかを互いに伝える様子が見られた。

「大人はたばこを吸ってもよいが、高校生は吸ってはいけない」というお題が出されたときに、ある生徒はあってもいい違いだと札を挙げて「たばこを吸ってはいけないって、法律で決まっているから」と理由を述べた。その際に「法律が変わったらどうする？」と指導者に聞かかけられると「…その場合はちょっと考えないといけないかな。自分は健康に悪いから吸わない方がいいと思うけど」と、改めて自分がどうしてたばこを吸うべきではないと考えているのかを見つめなおそうとする様子が見られた。また、「(たばこを吸うのは) その人がいいんじゃないんじゃないか」という意見が出されたときに、普段から相手の意見に対して無条件にうなずいてしまいがちな生徒が「でも体に悪いんじゃないかな」と自分が考えていることをはっきりと伝える場面もあり、クラスの生徒たちは改めて、人によって異なる考え方を持っていることを実感できるような場面もあった。

一方で「バレンタインデーに Sくんはチョコを 10 個もらったが、Jくんはもらわなかった」などのお題については「そんなことが現実的にはないから、ちょっとわからない」と、考えをまとめにくそうにする生徒が多かった。お題を取り上げる際には、生徒たちが実感をともないやすいようなものにする必要があったと思われる。

授業後のワークシートでは「人と自分の意見を大切にする」「自分から一回聞いてみる」「他の人の考えを認める」「人それぞれの個人の差もある」など、生徒たちが他者との関係性の中で、日頃から困り感を抱えている事柄と関連する記述が見られた。このことから、生徒たち自身が自分の抱えるコミュニケーションについての課題を意識し、それらを改善していきたいという思いが感じられる。

これまで、このような授業を積み重ねてきている中で、生徒たちには少しずつ変化が見られるようになってきた。入学当初はほとんど自分からは話ができなかった生徒たちが、少しずつ自分の考えを伝えられるようになり、相手の意見を聞かないといけないな、と感じられるようになってきている。そのような中で、きちんと自分の意見を伝えることが大切だということについての実感を得ているようにも感じる。

一度の授業で、生徒たちが大きく変化することはほとんどないが、このような取り組みを継続していく中で、自らの思いを安心して開示していけるような関係性を大切にしていきたいと考えている。

表2 ワークシートによる振り返り

---

①感じたこと、わかったこと

- ・人が決めたものをひいてはするんじゃないかと話を取り入れるのも必要な事なんじゃないかなとおもいました。
- ・人は好きなことやにがてなことがあるので自分だけをかんがえずにあいてのことも考えて行動しようと思いました。
- ・法律で決まっていることとかもあるし、人それぞれの個人の差とかもあるんだなと感じました。
- ・この授業で、他の人の意見を聞いてみると、違う考え方の人たちがだす考えで、対して自分に影響はしないこと、他の人の考えを認めることも大事だと思いました。

②あってもよい違い、あってはならない違いを考えたときに、大事だと思ったこと

- ・自分のいけんを人にあわせずに言うことかなと思いました。いけんをあわせてもしょうじきにいわないとだめな所一杯あるし、人のいけんは人、自分のいけんは自分のように、人と自分のいけんを大切にすることがだいじなことだと思いました。
  - ・まず人のことをかんがえてそして、自分から一回きいてみる。
  - ・みんなの考えがこんな感じのことを考えていることを考えながら考えました。
  - ・自分の意見を最後まで伝えることと、他人を否定しないこと。
- 

【参考文献】

北岡大輔・武田鉄郎（2020） 二次障害を呈する生徒に対応した授業プログラムの構築：関係性を生かした深い学びと自尊感情を高める試み. 和歌山大学教職大学院紀要：学校教育実践研究（4）, 43-50.